

# 小学校社会科の授業と家庭学習を連携させ、

## 説明・議論する力を高めるICT活用の一考察

樋口 勇輝（八代市立八代小学校）・山本 朋弘（鹿児島大学大学院）

概要：小学校社会科において、情報端末やUSBメモリ、eラーニング等を活用し、授業と家庭学習を連携させた授業実践を展開した。映像や静止画、検索等による情報収集、eラーニング上や授業での議論場面の設定を行い、家庭学習と授業での対話的な学びを関連づけるようにした。授業映像や完成作品、eラーニングへの投稿を分析した結果、家庭での調査活動の時間を十分確保することができ、授業での対話的な学びを充実させながら、お互いの考えに対して、積極的に賛成や反対、質問等を行う児童の姿が多く見られるようになった。

キーワード：対話的な学び、情報端末、家庭学習、eラーニング、説明・議論する力

### 1 はじめに

今回の学習指導要領改訂（2017）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、社会的な見方や考え方を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた問題解決的な学習の充実が不可欠であり、問題解決的な学習での個人思考の充実と対話的な学びの展開に注目し、考えを比較・関連・総合づけ、さらに思考を深めていくことが重要であるとされている。また、子供たちの議論をより一層深めていくためには、授業だけでなく、家庭での学習も連携させながら展開することが求められる。

授業と家庭学習との連携について、先行事例が報告されているが、それらの教育効果等の客観的な検証が求められる。山本（2017）は、教員向け意識調査を実施し、探索的因子分析を用いて分析し、タブレット端末持ち帰りによる家庭学習と授業との連続性を促進・阻害する要因を明らかにした。

武雄市（2016）で実施した反転授業では、タブレット端末を持ち帰って家庭学習を実施しており、一人1台のタブレット端末環境を整備する必要があるが、全国的にも一人1台環境を整備できる自治体は少なく、家庭でのインターネット環境や従来の方法を用いるなどして、授業と家庭学習の連携を検討する必要がある。

そこで、本研究では、USBメモリやeラーニング、情報端末等を活用し、授業と家庭学習を連携させた授業実践を展開することで、児童の説明・議論する力を高めることをねらいとした。具体的には、映像や静止画、検索等による家庭での情報収集、eラーニング上や授業での議論場面の設定を行い、家庭学習と授業での対話的な学びをどのように関連づけるのか、実践から得られた成果を報告することとした。

### 2 研究の方法

#### （1）調査対象

小学校6年生25名の児童を対象に、社会科、単元名「日本の歴史（全国統一への動き）」（教育出版）での実践を行った。本研究では、USB持ち帰りやeラーニング活用による学習活動を取り入れた。家庭のパソコン保有率は80%、インターネット接続環境は72%である。インターネット環境がない児童は、学校での調べ学習を行うようにした。また、授業をビデオカメラで撮影記録し、授業者が振り返るようにした。

さらに、単元導入時と終了後に授業や学習状況に関する児童向けの意識調査を実施した。10項目について、4段階評定（4：とても、3：少し、2：あまり、1：まったく）で回答させ、単元を通して児童の意識の変容を見取ることができるようにした。

## (2) 実施方法

本研究では、以下の研究の視点をもって、情報端末を活用しながら家庭学習との連携を図る授業展開を設計することとした。

### 視点1 家庭での情報収集

USBメモリ（資料や動画を入れたフォルダを作成）を児童に配布し、家庭で情報を収集する時間を確保した。次に、家庭で収集してきた情報をもとに、授業での対話的な学びにつなげるようにした。

### 視点2 eラーニング上での対話的な学び

eラーニング上で、児童どうしが議論できるようにした。家庭で自由に自分の考えを書き込ませ、児童どうし、または、教師と児童で意見交流を行った。eラーニング上で話題になった議論の部分は授業の中でも取り上げて紹介するように計画した。

## 3 研究の実際

### (1) 家庭での情報収集

調べ学習の時間を家庭学習として設定し、USBメモリに配付した資料から事前の調べ学習を行うことで、個人思考の時間を十分確保することができた。このことにより、これまでの学習では授業時間内に行っていた情報収集の時間を、教室内での対話的な学びの時間として十分確保することができた。また、授業では、家庭で情報収集してきたことをもとに、説明資料として

のプレゼンテーションやレポートを作成したりして、対話的な学びを進めるようにした。

### (2) eラーニング上での対話的な学び

単元を通して、eラーニング上で議論させるようにした。テーマは、三人の武将の業績やその歴史的意義について、自分の考えを伝え合い、議論することとした。児童は、家庭や学校の休み時間、放課後に自由に考えを書き込み、活発な議論を展開した。

表1は、eラーニング上での書き込み数を示す。教師の投稿は課題提示であり、児童の投稿は、その課題に対する主張となる。4回の課題提示に対して、45回の投稿（主張）があった。また、児童の投稿（主張）に対する教師の返信（反対や質問）が16回、児童から児童への返信が63回であり、合計128回のeラーニングへの書き込みがあった。

表2は、eラーニング上での特徴的な議論の記述を示す。友達の考えに賛成は下線、反対は波線、質問は二重線で表している。児童1、2、

表1 書き込み一覧

	投稿	返信	合計
教師	4	16	20
児童	45	63	108
合計	49	79	128

表2 eラーニングの特徴的な記述

児童1	(主張) : いろんな戦いで勝利しながら、三人の武将は世の中を安定させたかった。
児童2	(主張) : 三人の武将は、一人一人がトップに立ちたいと思っていた。だって、明智光秀も家来だったのに裏切った。家康も秀吉に仕えていたのに豊臣軍を滅ぼした。
児童3	(主張) : 三人の武将は、自分の権力を世の中に示したかった。全国に力を示して、みんなを従わせることにより、自分の思い通りの国づくりをしたかった。
児童1	( <u>児童2・3に反対</u> ) : 資料にあったけど、信長は人々のために、「城下町の発展」「楽市楽座」「南蛮貿易」などの新しい取組をし、世の中を安定させたかった。
児童3	( <u>児童2に賛成</u> ) : 三人の武将は、とにかく全国統一がしたかっただけ、全国に権力を示したかった。2と同じように、秀吉や家康もいつか裏切りを考えていたのでは。
児童2	( <u>児童1に質問</u> ) : その通り。戦国時代はみんな全国統一を目指して、人々のことなんて考えてた？自分の権力を示すことしか考えてなかったと思うけど。
児童1	( <u>児童2に反対</u> ) : 家康の生き方から考えると、「戦国の世の安定」の思いが強く、たくさんの戦も全国統一して、戦国の世の中を平和な世の中にしたかったのでは。 (省略)

表3 レポート記述とeラーニングの関連

<p><b>児童Aの書き込み</b></p> <p>家康もすごいけれど、秀吉もすごいんじゃない？だってさ、<u>農民（百姓）の地位からこつこつと努力して関白とか、武士とかの高い地位につけたんだよ。</u></p>	<p><b>児童Aのレポート</b></p> <p>私は、全国統一の一番の立役者は、豊臣秀吉だと思う。理由は、<u>元々小さな百姓の子だったのに、そこから三〇年以上信長に仕え、支えて、陰ながら努力をして、全国統一を果たしたから。</u></p>
<p><b>児童Bの書き込み</b></p> <p>徳川家康だと思います。徳川家康は、江戸の町をどんどん発展させて、<u>安定した江戸時代を築き、それが今の東京をつながっているんだよ。</u></p>	<p><b>児童Bのレポート</b></p> <p>このように家康は、全国統一に大きく貢献し、安定した世の中作りや朝鮮との貿易を十二回行うなど、いろんな事に挑戦し、<u>ぼくたちの今の平和な日本を作ってくれたのは徳川家康だと思う。</u></p>

3が自分の考えを主張した。その後、児童1は、児童2、3の考えに対して反対の意見を記述し、児童3は児童2に賛成した。また、児童2は児童1への質問を行い、児童1はそれに答えていることがわかる。eラーニングを通して事前に議論を行ったことで、児童は様々な視点から自分の考えをもった。

表3は、単元終末に作成したレポートとeラーニングの書き込みとの関連を示している。児童Aは、eラーニング上で豊臣秀吉の話題を取り上げ、「農民の地位からこつこつ努力してきた」ことを説明し、レポートでも「小さな百姓の子だったのに、そこから三〇年以上信長に仕え、支えて、陰ながら努力をした」ことを記述している。また、児童Bは、eラーニング上で「安定した江戸時代を築き、それが今の東京をつながっている。」ことを説明し、最終的なレポートでは、「ぼくたちの今の平和な日本を作ってくれたのは徳川家康」という記述をしている。このように、児童同士の議論の中で特徴的な記述がeラーニング上に見られ、そのことが最終的なレポート作成でも生かされていることがわかる。

また、eラーニング上で、特に話題になって議論された部分を、教師が授業で提示して、対話的な学びにつながるように課題を提示した。表4は、教師の提示と児童の発言の内容である。課題は、全国統一を目指したのは、自分のためか、人々のためかというものである。教師の課題提示に対して、児童アと児童ウは「人々のため」の立場を示し、児童イは「自分のため」の立場を示し、根拠を明確にしながら議論してい

る様子がわかる。このように、eラーニングの書き込みを生かし、児童に揺さぶりをかけながら対話的な学びの充実を図ることもできた。

表4 議論を授業の提示に取り上げた際の内容

<p><b>授業での教師の提示</b> (eラーニングの書込内容を取り上げた発問)「全国統一を目指した三人の武将の思いや願いをより深く考えていくと、全国統一は自分のためなのか、人々のためなのか、どちらでしょうか。」</p>
<p><b>児童アの発言</b>：人々のため。織田信長は、商工業を発展させる・堺の町を支配する・南蛮貿易を行うなど...そのようなことをして自分のためだけではなく、人々が安心して暮らせるために一生懸命頑張ったから。</p>
<p><b>児童イの発言</b>：人々が安心して暮らせる世の中なんて、できないって思ってたんじゃない？だって、戦国の世の中だし、みんな全国統一だけ（自分のため）を目指して、人々のことなんて考えてないよ。全国統一は自分の力がわかる夢みたいなので、自分が今どのくらいの所にいるのか、どこまでいけるのか自分の力を試してみたかったんじゃないかな。人々のためにはその次。</p>
<p><b>児童ウの発言</b>：でも、家康は「まず世の中を安定させたい。そのような気持ちが強かった！」という資料が映像の中にあり、戦いなどもすべて世の中の安定のため、人々のためにという思いや願いが強かったんじゃないかな。</p>

表5 児童向け意識調査の結果

調査項目	単元前	単元後	増減
①発表では話す内容を整理しているか	67%	87%	+20
②家庭学習で学んだことを授業で生かしているか	76%	94%	+18
③問題について解決方法を提案しているか	71%	87%	+16
④多くの資料から情報を集めるようにしているか	76%	92%	+16
⑤自分から進んで学習できている	79%	93%	+14
⑥学習の振り返りを行っているか	76%	88%	+12
⑦自分なりの考えを持つようにしているか	79%	90%	+11
⑧学習を計画通り進めることができているか	83%	89%	+6
⑨共通点や違いを見つけるようにしているか	94%	98%	+4
⑩友達と協力して学習を進めているか	83%	89%	+6

### (3) 意識調査の結果

表5は、児童向け意識調査の結果であり、そう思う(4:十分及び3:少し)と回答した児童の割合を示している。特に、「①発表では話す内容を整理している」、「②問題について解決方法を提案している」、「③多くの資料から情報を集めるようにしている」、「④家庭学習で学んだことを授業で生かしている」の項目において、高い伸びを示していることがわかる。①②の項目の伸びから、家庭学習の充実により、授業で発表する内容がより整理され、意欲的に説明したり議論したりする児童の意識につながったと考えられる。また、③④の項目の伸びから、問題の解決に向けて、より多くの資料から情報を収集し、解決のための提案を考えようとする意欲につながってきたことが考えられる。

## 4 研究の成果

本研究の成果については、以下のとおりである。

- USB メモリや e ラーニング、情報端末等を活用し、授業と家庭学習を連携させた授業実践を展開することができた。
- USB メモリを持ち帰り、情報収集を行ったことで、児童は調べ学習の時間を十分確保することができ、授業での対話的な学びの時間をしっかりと充実させることができた。
- e ラーニングを活用し、全 128 回の書き込みが見られ、意見に対する賛成や反対、質問等を積極的に行う児童の姿が見られた。
- e ラーニングでの書き込み内容が授業で作成したレポートに反映されており、授業と家庭学習を連携させることができた。
- 教室での議論では十分深めることができない場面で、その後 e ラーニングを活用したことにより、家庭からの書き込みが可能となり、授業の議論をさらに深めることができた。

### 参考文献

- ・文部科学省(2017)「学習指導要領解説(社会)」  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931\\_003.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_003.pdf)
- ・山本朋弘(2017)「タブレット端末持ち帰りによる家庭学習と授業の連続性を促進・阻害する要因に関する分析」,日本教育工学会研究報告集 p101
- ・武雄市(2015)武雄市「ICT を活用した教育(2014 年度)」第1次報告書  
<https://www.city.takeo.lg.jp/kyouiku/docs/20150609kyouiku01.pdf>